
透明人間検証

風唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

透明人間検証

【Nコード】

N8846A

【作者名】

風唄

【あらすじ】

透明人間の検証を私が独断と偏見と拙い知識と貧相な発想力を駆使して一時間で書いた作品です、苦情は一切受け付けません（笑

(前書き)

警告、この作品はとても馬鹿らしい駄文です、正直、読む価値はゼロに等しいです、それらを承諾した方のみお読み下さいm(____)m

透明人間

それは人類の夢（ある人【匿名希望】いわく）

実際、透明人間の歴史は古い、らしい

たとえば、ナチスドイツ、いわゆるナチも研究していた、らしい

詳しいことは知らないがH・G・ウェルズと言う小説家が書いた

「透明人間」

が最初、らしい

あの、包帯を巻いたやつだ…読んだことは無いが…

さて、話は多少かわるが光りが物体に当たったときの反応は三つ

- 1、反射
- 2、吸収
- 3、屈折

もし、この反応が無くなれば、それは透明人間完成、と言うわけだ、

この話では透明人間の有効性を真面目に検討してみようと思う、

これは、私の完全なる独断と偏見と拙い知識に貧相な発想力で満ちているため、正しい保障は無いことを先に書いておきたい、

最初に、日常生活についてだ、

まず、透明人間になった以上、正体がバレるわけにはいかないだろう、

何らかの方法で透明人間になれたとしても回りが理解してくれる確率は低い、

不審者扱いか、化け物扱いか、はたまた幽霊扱いか…

ともかく、バレるわけにはいかないのだ、

つまり、服を着るわけにはいかない、

服が動いていると言う不自然なことはできない、

まず、見えないとは言え、その恥ずかしさに耐えられなければ透明人間などなれない、

透明人間になれたとして、基本的に人との接触が無い日常生活は困難はないように思える、

唯一あげるならば、自分の手も見えないため、苦勞する部分も多少出てくるだろう、

しかし、ほかには大きな困難はないように思える、

次に、外に出た場合だ、

まず、一つ目の困難が立ちはだかる、

…靴さえはけないのだ

服も着ていないため、困難を極める、

夏は熱いし、冬は寒い、

ここで行動できる季節、地域が限定される

しかし、大変なのはほかにも多い、

いくつかあげると、

日光が体をとおり抜ける、

日光自体熱を持っているために、その熱は体内に蓄積されてしまう
のではないか、

これは、天候にも大きく左右されると言うことだろう、

晴れは勿論、雨も存在がバレる確率が高い、

故に出掛けるのは曇りの日だけだろう、

次に、行動についてだが、

足跡を残すわけにもいかないだろう、

それに、体に何か異物が付着すると、それによってバレる可能性が
高い、

ほかにもあるがこのくらいにしておこう、
実際、外で行動は殆ど不可能だ、

見えなくとも体はあるわけだから、何かにぶつかれることもある、
動いたら風だつて起こるし、足音だつてするだろう、

もはや、まともな日常生活は不可能だ、

ここまできて、デメリットは沢山あったがメリットはないように思
える、

仕方ないので、メリットがありそうなことに限って検討してみよう、

それらは、殆どが犯罪になるだろう、

それはともかく、

では、深夜のパチンコ店に空き巣に入ると、仮定しよう、

深夜、誰もいなくなるのを確認して、店舗に侵入する、

侵入方法は目立たなければなんでもいいためピッキングと仮定する、

侵入すると、警戒しなければいけないのは普通は防犯カメラ程度だ
ろう、

しかし、カメラならば透明人間のメリットは最大限に発揮される、

よほどのことが無いかぎりバレる心配は無い、

つまり、完全犯罪さえ可能な気はする、

しかし、透明人間である以上指紋や足跡は隠せないのでは無いか、

現金が浮いていると言うことも不自然だ、

持ち帰る際、誰かに見られたらどうするのだろうか、

どこかに隠したとしてもその問題を先送りするだけだ、

しかし、指紋があろうがなかろうが、透明人間を疑うなんて不可能
だろう、

そしてなにより…

透明人間である以上、金はどうやって使うのか？

謎だ…

結論、メリットは殆ど無い上にデメリットばかりで、意味は無い、

(後書き)

こんな馬鹿馬鹿しい作品を最後までお読みいただきありがとうございます
いましたm() () m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8846a/>

透明人間検証

2010年10月11日08時20分発行